

おおさか AALA

非核・非同盟・平和・友好・連帯

今月の読み物

◇2～3面:大阪母親大会プレ企画報告「デジタル教育どう思う?」◇4～5面:田中靖宏さんのパレスチナをめぐる簡潔な歴史◇6面:夜明けへの道◇7面:大阪AALA企画海外ツアー

〒540-0004 大阪市中央区玉造 1-6-11 黒石ビル3F
2024年 6月1日 No. 616



2024.5.3 輝け！憲法「おおさか総がかり集会」の状況
ポテッカーを掲げアピール（写真：大阪AALA編集部）

輝け！憲法 平和といのちと人権を

爽やかな青空の下、扇町公園で憲法集会が開催されました。

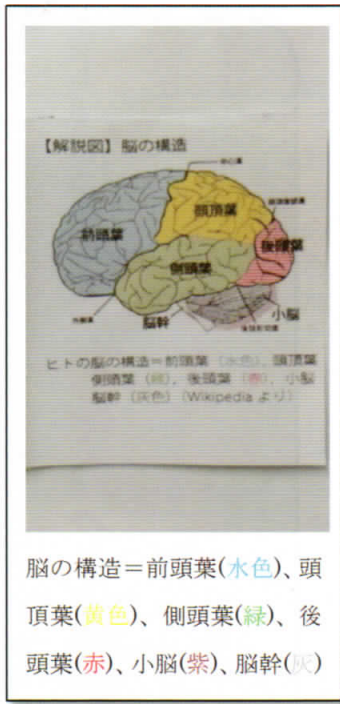
大阪AALAからは10名が参加し、会場入口で「第10次国際署名 戦争するな！どの国も 東アジアを不戦、平和、協力、繁栄の共同体に」の署名活動を行いました。

足早にステージ広場に急ぐ参加者に「今年11月にアセアン本部に提出します」と呼びかけながらペンを差し出すと、どなたも快く応えてくれ、木々の新緑を目に、うたごえの方々の心地よい合唱を耳にしながらの楽しい署名行動になりました。

ステージは、サックス奏者 Swing MASA さんのパンチの効いたオリジナル曲「DON'T KILL（殺すな）」で開幕。開会挨拶に続き、メインスピーチとして「終わりの見えない戦争

から平和をどう創りだすか」と題し、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)の川崎哲さんが登壇されました。

川崎さんは、「第2次世界大戦後、痛苦の反省のもと、平和に生きる権利があるとうたう日本国憲法を得た。そして、それは今日まで、辛くもその役割を果たしてきている」とし、「終戦から、年月を経た現在、戦争のリアルを知らない人の中には戦争を防ぐために、軍事力を高めないとはいえないと考える人もいるかもしれない。が、軍事力では何も解決しないということとを、根気強く語り続け、平和のルールを支持する行動を広げていこう。声を出すことで手をつないでいこう」と、大きな身振りを交えながら力強く訴えられました。



高校生の64%が文書能力が基準に達せず、計算力も半数近くが基準以下と、まともに読み書きが出来ていない現実を見ての改正です。子どもの学習「危機」が起こっている中での手書き・対面教育に回帰です。

日本でも同じことが起こっていることを容易に想像できます。ドイツでも、科学者が、「学習成績低下、健康への悪影響、心理的、社会的副作用」を理由として、学校でのデジタル化の一時停止を呼びかけています。またポルトガ

ルは、スウェーデンのデジタル教科書放棄したことを受けて、デジタル教科書の導入を停止しました。今年日本の教科書採択の年になっていきます。デジタル化が進み、どのページにもQRコードが付いています。結高、「教育効果についての確固たる証拠はほとんどない。」と言うことです。

ICT活用には、教師の指導性が重要と強調されました。「記憶と思考の学習は、ペンとノートで積み重ねることで定着する。」「脳に負担をかけないと勉強にな

らない。」「手書きの苦労が、必要である。」「簡単に出来ることは簡単に忘れてしまう」と「勉強に王道はない」と言うことです。

■なぜ無料なのか？

ライন対話(電話代無料)ズーム(基本無料)ポケモンGOなど無料サービスと引き換えに個人データが奪われていること。グーグルズに取れば、何でも分かる(宿題、料理、植物など)と思っていたのに私たちが検索され操られていたことに、気づかされました。今回は時間の関係で詳しくお話されませんが、「マイナンバー」と関連付けられ個人データが儲けと監視のタネに使われていくのかと恐ろしくなりました。

■子ども達を守る

シリコンバレーに働く(アップル、グーグル、ヤフー)親たちが自分達の作った製品から子どもを遠ざけるようになっていくようです。「中学2年生になるまでコンピュータを一切使わない学校に通学させている。」これは衝撃的です。学力低下だけでなく中毒性、依存性からもわが子だけは守るために学校を選んでいっていることです。

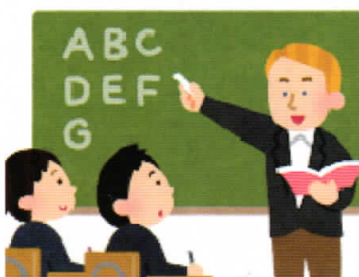
資本主義社会の経済優先で多くの子どもが未来が壊されていくのかと思うと、保護規制のない国(日本を含む)の無策に腹立たしく思いました。

この学習会では、多くのデータで示されたので、わかりやすくいろいろ知ることが出来ま

した。知れば知るほど恐ろしくなりました。子ども達が、タブレットを使うことで、「考えなくても良い」と言わせてしまうデジタル教育。元教師として好奇心を揺さぶり、学びの追求に繋げる授業を子ども達に提供していく余裕と、人員が必要と考えました。

教師自身も道具として使い、デジタルに使われることがないように、ICTをコントロールできる教職員の共同した取り組みに期待したいです。

(飛田 知江美)



パレスチナをめぐる簡潔な歴史

日本AALA代表理事 田中靖宏

【発端】

パレスチナ問題は、西側諸国でのユダヤ人迫害と英国によるパレスチナ植民地支配の歴史を背景に、1947年1月、国連がパレスチナをアラブ人とユダヤ人の国に分割したことに始まります。国連総会が採択したこの勧告案は、パレスチナ住民の民族的な権利を奪い、当時のパレスチナの人口の3分の1、土地のわずかに7%しか占めていなかったユダヤ人に57%の土地を与えるという不公平なものでした。3つの宗教の聖地エルサレムは国際管理の下に置くことと決めました。

【領土の返還】

翌48年5月、イスラエルが建国を一方的に宣言すると、これを認めないアラブ諸国が攻め込んで、第一次中東戦争が起こりました。その戦争で多数のパレスチナ住民が虐殺され、家と土地を奪われて強制的に追い出されました(ナクバ＝大災厄)。戦闘に勝利したイスラエルは、分割決議をはるかに超える77%の土地を支配下に置き、残り23%のヨルダン川西岸とガザも、1967年の第三次中東戦争ですべてがイスラエルの占領下に置かれました。国際管理の下に置くこと定められたエルサレムも、西に次いで東の部分もイスラエルが占領、1980年にはイスラエルが「統一エルサレム」を恒久的な首都と宣言しました。

【国連のかかわり】

国連は1960年代までパレスチナ問題を「難民問題」としか扱ってきませんでした。しかし世界で民族解放運動が高揚するなかで、次第にパレスチナの自決権や民族独立の権利が確認され(国連決議3236など)、独立国家樹立の問題として取り組まれるようになりました。パレスチナ人自身も1980年代に大きな方針転換をおこないました。それまで拒否していた国連の分割決議を認め、イスラエルの生存権も承認して、1968年の第三次中東戦争前の23%の土地に独立国家を樹立することに合意、分割決議は「パレスチナ人の独立の権利を保障する国際的な法的枠組みとなっている」と宣言しました。一方イスラエルは、国連決議のなかで生まれた国でありながら、アメリカとともに国連主導の和平会議に反対し「二国間の平和交渉こそ解決の道」と主張しました。

【占領地の状況】

1990年代以降、アメリカを仲介者として数次の中東和平交渉がおこなわれました。その結果生まれた1993年の「オスロ合意」は、西岸とガザの一部にパレスチナ人の限定的な自治を認めたものの、6割がイスラエルの完全占領下に残されました。イスラエルはこの地域に公然と入植地を建設、パレスチナ住民を追い

出して領土拡張の既成事実をつくり続けました。西岸とエルサレムには220カ所の入植地が建設され、60万人以上のユダヤ人入植者が移住しています。テロ対策を口実にパレスチナ領土に踏み込んで広大な分離壁が建設されています。「暫定的」とされた合意は無期限に延長され、国際社会がよびかける二国家共存という問題解決の道がますます遠くなる事態が続きました。

【国際世論の変化】

しかし国際社会の対応も着実に変化してきました。とりわけ対米配慮と過去のユダヤ人差別の歴史からイスラエル批判に及び腰だった西側諸国の世論にも重要な変化がおこりました。それを背景に、国連ではパレスチナのユネスコ加盟が承認され(2011年)、「投票権なしのオブザーバー国家」に格上げ(2012年)、国際刑事裁判所への加盟承認(2015年)が相次いでおこなわれました。2016年12月には、国連安保理が、イスラエルの入植活動を

「国際法違反」で「問題解決に逆行」とする決議2334を採択しました。それまでイスラエルを擁護して批判決議を葬ってきたアメリカが拒否権を使わなかったことは異例でした。2017年までには、パレスチナを国家として正式に承認した国は137カ国にのぼりました(国連加盟国193)。

【パレスチナの抵抗運動】

このような変化をおこしたのは独立国家建設を含む人権回復を求めるパレスチナ人民の粘り強い活動です。1987年以降の民衆蜂起(インティファダ)などあらゆる手段の抵抗運動が続けられました。とくに「天井なき牢獄」とよばれて壁で封鎖されたガザ地区では、2006年の議会選挙で勝利したハマス(イスラム抵抗運動)の統治の下で、武装組織によるイスラエル攻撃がおこなわれました。イスラエルはこれをテロ攻撃と見做し、「報復」として大規模爆撃や軍事侵攻をくりかえしました。そのたびにガザ住民には数千人の被害者がでました。人々は「離散」することなく、国家建設をめざして抵抗を続けてきました。これにたいしイスラエルでは、二国家共存を否定し、パレスチナ人を一掃する「民族浄化」を公然となえる極右勢力が台頭し、政権を握りました。

【ジェノサイド】

こうした中で2023年10月7日、イスラエル領をハマス武装勢力が奇襲攻撃し、1200人を殺害、多数を人質にしました。これにたいしネタニアフ政権は「ハマス壊滅」をとらえて軍事侵攻。これまでにない規模の破壊と殺戮を繰り返しました。7か月間



「ストップ・ザ・ジェノサイド」

の攻撃で、3万5千人以上が殺害され、7割が女性と子供です。住居の70%が破壊され、人口200万人のうち170万人が南部のラファ周辺に「避難」。イスラエルが水や食料、燃料の供給をストップしたため「飢餓」状態の人道危機が発生しました。国際社会からはイスラエルの「行き過ぎ」にたいする批判とパレスチナ支援の声が急速にたかまり、国連総会では「人道休戦」を求める決議が154カ国の賛成で採択されました。国際司法裁判所(ICJ)は南アによる提訴をうけてイスラエルに「ジェノサイドを防ぐあらゆる措置」を取るよう命ずる判決を出しましたが、イスラエルは軍事行動をやめていません。イスラエルを擁護するアメリカのバイデン政権は、早くから軍事作戦の支持を表明し、特別の軍事援助をおこなって支えています。

また国連安保理の休戦決議案を3度にわたって拒否権で葬るなど「ジェノサイド」作戦を実質歴に支えています。イスラエルに攻撃の停止と休戦を求める国際的な運動が広がり、アメリカ国内でも学生や市民団体が抗議活動に立ち上がっています。(了)



数年前に日本AALAによってつくられたパレスチナの歴史資料に補筆し、寄稿していただきました。

ベル江の映画大好き

「夜明けへの道」

監督・脚本・撮影 コ・パウ



クーデターに対する抗議デモ

AALA機関紙五月

号に同封されていたチラシを見て久しぶりに第七芸術劇場へ。

ミャンマーの映画を初めて観ました。

コ・パウ監督は、二〇一九年にミャンマーのアカデミー賞（監督賞）を受賞し、ミャンマーを代表する俳優・

映画監督。

二〇二一年二月一日の国軍によるクーデター後すぐに、芸能人たちも全国的規模の抗議デモに参加したことで

コ・パウ氏はデモを先導したと、二月十七日から指名手配され、転々と逃げ隠れた後、八月に民主派勢力の支配地域にたどりつきました。ジャングルで潜伏し闘う中で制作したセルフドキュメンタリー映画です。

コ・パウ監督の逃避行中、私はドキドキ・ハラハラ。スマホで話すだけしかできない子供への深い愛情、会って抱きしめたいだろうと思うと胸が締め付け

られました。撮影機材も困難な状況の中、多くの人々の努力で完成した映画には、死を覚悟して闘う人々の情熱が伝わってきました。

強い意志を持ったコ・パウ監督ですが、逃走中の閉ざされた部屋で本を読む姿、ジャングルでギターを弾く姿に、私は時折、深い悲しみと苦悩を見てしまいます。

軍政に逆らわないという誓約書を出せば、家族と暮らせて仕事もできるとの誘いもあった。しかし彼は、子供や孫の将来のため、そして自分自身の人生のために闘う苦難の道を選んだのです。自分たちのような有名人が表に出て声をあげないと、世界の人に理解してもらえない、革命は実現しないだろうと決

意している、その覚悟に胸が熱くなります。

半世紀にわたる軍事政権から、やっと二〇一一年に訪れた民主化の流れの中、一夜にして自由も希望も奪われた人々の怒りと失望。平和的な抗議デモなのに、自国民を機関銃で一掃するなど容赦ない残虐な弾圧。市民は不服従運動で粘り強く闘っています。しかし、



ひとり本を読む コ・パウ氏

医師たちが、教師たちが、その本来の職場を離れ闘うしかない国とは、いったい何なのだという怒りでいっぱいになります。家族とも別れ街を出て武器を持たざるをえない若者たち、塹壕で身を潜めて勉強する子供たち、村を焼き打ちされ、家を失った貧しい人々の嘆き・悲しみが胸に迫ります。

ミャンマーの夜明けへの道に少しでも支援したいと思えました。
(ベル江)



久々の大阪AALA企画海外ツアー

ベトナム戦争終結50年を迎えるホーチミン

・ダナン・フエへの旅 「2025年2月実施」

旅の準備編①

2018年の韓国ツアー以来、実に7年ぶりとなるおおさかAALA企画海外ツアー。

ウクライナへの侵攻、ガザへの爆撃など戦火が止まない今、改めて戦争と平和について考えたいと、目的地はサイゴン（現在のホーチミン）解放50年を迎えるベトナムに決まりました。

今月から誌上で、旅行計画の進捗状況や見学地紹介、旅行への期待の声等を随時、掲載していきます。



■小豆島正典さん

（日本ベトナム友好協会大阪府連・常任理事）との懇談

5月1日午後、日ベト協会の小豆島さんに大阪AALA事務所に来ていただきました。大阪AALAに所蔵されていた写真集『ベトナム解放戦争』（石川文洋）写真・ベトナムに写真集を送る運動実行委員会編（1977年発行）を傍らに、ベトナム旅行についてのアドバイスを伺いました。小豆島さんは、ベトナムの福祉施設設立に携わり、2年間現地で生活されていたそうです。最近も毎年1回、

ベトナムを訪問されているとのことでした。

ベトナムの南北は日本の本州より長い1650km。北に位置する首都ハノイでは冬はかなり寒くなる、また、移動は飛行機でもハノイから中部のフエ、ダナンまで1時間半はかかる、とのこと。6日程度の日程なら、訪問都市はあまり多くない方が良く、とのアドバイスをいただきました。また、小豆島さんが設立に関わられた福祉施設を紹介していただき、ホーチミン空港のすぐそばにあると聞き、ぜひ訪ねてみたいと思いました。「ベトナム

戦争について知るには？」との問いには、ホーチミンの「まずは戦争証跡博物館」と教えていただきました。

■旅行の大枠が決まり、9月には旅行チラシ発行予定

この懇談を受け、ツアーの概要は以下の通り決まりました。

旅行時期は乾期で旅行しやすい2月。旅行日数6日間。

訪問都市：ベトナム戦争の激戦地だった中部の都市ダナン

グエン朝（1802年〜1945年）の都だったフエ

ベトナム最大の南部の都市ホーチミン

（ホイアン・ミーソン遺跡も候補に挙がっています）



ベトナムの南北明細地図



日本ベトナム友好協会 小豆島正典さん



5・3集会参加のメンバー



署名に取り組む AALA のメンバー

(トップページより続き)
今年、喜寿を迎えた日本国憲法。その精神が骨抜きにされてきていることに、悔しさと、怒りを感じることが多い昨今ですが、舞台からの力強い訴えと、参加者の熱気に元気をもらった一日でした。

第62回 大阪AALA定期総会
 日時.. 2024年6月2日(日)
 13時30分~16時30分
 場所.. 国労大阪会館1階中ホール

文化欄

裏金は赤旗なくば裏のまま
 長生きし高齢化だと疎まれる
 菜根譚我が人生の道しるべ

大阪市旭区 近藤 正

イスラエル銃で交渉
 しかできぬ
 パー券なら売るのは得意

能登地震忘れたような自民党
 四条畷市 西川ひろし

自民党

■当面の日程■

6月 2日(日) 第62回おおさかAALA定期総会
 13時30分~ (国労大阪会館)

6月14日(金) 第2回日本AALA常任理事会
 10時30分~12時30分 (ZOOM)

6月29日(土) 大阪母親大会12時~45分(クレオ大阪)

7月20日(土) 第39回おおさかAALAカフェ
 13時30分~ (AALA事務所)

大阪AALA へのお誘い

会費 月 800 円(年 9,600 円) (25 才以下は年 3,000 円) ※入会金 500 円
 *会費の会計年度は毎年4月から翌年の3月です。半期毎に4,800円ずつご入金をお願いします。
 *会費の中には機関紙代も含まれています。月初めに大阪 AALA と日本 AALA の機関紙を郵送いたします



発行 大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 (大阪AALA)
 Osaka Asia Africa Latin America Solidarity Committee
 〒540-0004 大阪市中央区玉造1-6-11 黒石ビル3F
 TEL 06-6768-5360 FAX 06-6768-5361
 E-mail : osakaaala@nifty.com HP : http://osakaaala.la.cocan.jp/

機関紙・宣伝委員会

